実践事例　中学校３年

道徳の時間で活用する
～思いやり、感謝～

防府市立国府中学校　末冨　令子

1　本場面におけるポイント

- 道徳の授業で学習した内容をもとに、対応した内容項目の「私たちの道徳」を読むことで更に自分自身のものの見方・考え方を広げるきっかけとする。
- 「私たちの道徳」に自分の考えを書くことで、自分の考えを深める表現力が身に付き、実際に行動してみようという意欲をもつことができる。

2　授業の実際

１　主題名　高齢者と共に生きる

「資料名　『老い』を理解することはできますか？』（出典：日本標準みんなで生き方を考える道徳３）」

２　ねらい

インスタント・シニア体験を行ったり、資料を読んだりしながら高齢者を理解するとはどういうことかを考えることを通して、相手の立場を考えた思いやり・感謝の気持ちについて気付かせる。

３　展開

（１）導入（副読本の範読とインスタント・シニア体験）

教師：「老い」を理解することはできますか。
生徒：理解できる生徒・・・２人　　理解できない生徒・・・３１人
※　教師による副読本の範読
※　インスタント・シニア体験・・・①両肘、両膝にサポーターをつけ、関節を曲がりにくくし、動きの不自由さを体験する。②目に黄色がかったゴーグルをつけて、白内障の体験をする。③二重にゴム手袋をはめて、机に置いた１０円玉をとり、指先の感覚の機能低下を体験する。
教師：「老い」を理解することはできましたか。
生徒：理解できる生徒・・・３０人　　理解できない生徒・・・３人

□　指導上の留意点・支援・「わたしたちの道徳」活用のポイント等

「老い」についての発問を、授業の始めとインスタント・シニア体験後に行うことで、生徒の変容を確認する。また、インスタント・シニア体験を全員が行うことで、動きの不自由さ、感覚の機能の低下を実感し、高齢者への理解を深めさせる。

（２）展開（発問一つでの話合い）

教師：「高齢者」を理解することはどういうことだと思いますか。
※　個人で考える→グループで話し合う→発表
生徒：①高齢者が困っていることを知り、もっと優しく接し、自分たちにできることを知ること。②高齢者の気持ちを考えて、困っていることの手助けをする。

③高齢者の立場に立って行動すること。

□　指導上の留意点・支援・「わたしたちの道徳」活用のポイント等

自分の考えをしっかりともち、グループで話し合うことで、考えを深めたり、他の意見を取り入れたりして、本時のねらいに迫るように仕組む。

（３）終末（「高齢者と共に生きる」というタイトルで作文を書く。）

教師：「高齢者と共に生きる」というタイトルで作文を書きましょう。
＜生徒の作文＞
①高齢の方の話を、「そうですね。」「なるほどね。」と受け止めることが大切です。
②高齢の方への思いやりも相手が不快にならない程度にするべきだと思いました。
③お世話になった祖父母に恩返しをしたいです。何か簡単なことでもいいから、喜んでくれることができたらいいと思います。

□　指導上の留意点・支援・「わたしたちの道徳」活用のポイント等

話合い活動の後に作文を書くことで、「相手の立場や気持ちを大切にした思いやり」、「これまで家庭や社会を支えてきた高齢者への感謝」、「共にかけがえのない存在であるということ」の３点について考えを気付かせたい。

（４）「私たちの道徳」の活用

後日、生徒の作文をいくつか披露し、上記の３点を押さえた上で、「私たちの道徳」P54～P55を範読し、自分たちが身近なところで考える「思いやり」について、自分の考えを「わたしたちの道徳」P56に記入させ、日々の生活を振り返ったときに、自分にできることを具体的に考える機会をとった。

3　実践を振り返って

「私たちの道徳」P56の「思いやりとはどのようなことだろう。」という問いについての作文を書かせた。その中で、「先生や家族など支えてくれる人がたくさんいるので、その人たちのために、自分に何ができるかを考えて行動できるようにしたいです。自分が人を思いやることができる人になれば、周りの人からも愛されると思います。」という感想があった。

今回の道徳の授業では、「高齢者とともに生きる」をテーマとし、体験的な活動を取り入れたことで、生徒は高齢者の気持ちや立場を考えることができた。

また、話合い活動を通して、「高齢者を理解すること」について考えを深めることができ、「高齢者とともに生きる」というタイトルで作文を書くことで、更に自分の考えを深め、これからの生活で生かしていきたいことを意識することができた。

後日、生徒の作文をいくつか披露し、ねらいを再度しっかりと確認することができた。また、「私たちの道徳」を活用することで、「思いやり、感謝」の内容項目について、身近な生活の中で考えさせることができた。強さも弱さも持っている人間が、互いを認め、尊重し合う「思いやりの心」、多くの人に支えられて、今あることへの感謝とそれに応えていくことの大切さを確認することができたと感じている。

今後も「私たちの道徳」を、生徒の成長の軌跡として活用していきたい。